# 自然博物館ニュース

# A-MUSEUM

vol.84



ニュージアムパーク **茨城県自然博物館** 



洞窟で暮らすウサギコウモリ(撮影地:富山県富山市)



群れをなすユビナガコウモリ(撮影地:富山県富山市)

# コウモリ

「洞窟」それは暗闇の世界…暗闇の世界にもさまざまな生きものが生活しています。その中でも「洞窟の生きもの」として多くの方が思い浮かべるのはコウモリではないでしょうか。じつは、日本に生息する哺乳類のうち、もっとも種数が多いのはコウモリ類で、なんと陸生哺乳類の約3分の1(37種)を占めています。そのうち洞窟をすみかとする「洞窟性」のコウモリは、キクガシラコウモリやユビナガコウモリ、ウサギコウモリなど十数種です。夕方の原っぱなどでみかけるコウモリはアブラコウモリで、屋根裏などをすみかにしているため洞窟性ではありません。

洞窟をすみかとする生きものは、2016年2月に開催予定の「洞窟展」 (仮称)で詳しく紹介したいと考えています。 (資料課 諸橋靖子)



# 第64回 企画展

# くらしの中の動物 -嫌われものの本当のすがた-

The Creatures We Share Our Space With: The Truth About The Animals That We Call Vermin

わたしたちのくらしの中にはさまざまな動物が生き ています。その中には、害虫や害獣として扱われてい る種があり、そのうえ「人を襲うことがある」「毒を 持っている」「恐ろしげな風貌をしている」という事 例や特徴から誤解を受けているものが存在しています。 これらの動物は、人のくらしを中心にみると「嫌われ もの」として疎まれますが、生態系の中では、それぞ れが重要な役割を担っています。人が動物と共に生き ていくことを考えるとき、これら「嫌われもの」の生 き方や役割を知ることが重要なヒントになります。

今回の企画展では、普段は「嫌われもの」とよばれて いる動物たちについて、彼らの視点に立って、人のく らしの中での生き方を取りあげていきます。ハチは雌 しか刺さないことを知っていましたか。スズメバチな どがもつ毒針は、産卵管が進化したものなので、雌だ けがもっており難にはありません。ゴキブリは人家だ けが住みかではないことを知っていましたか。じつは ほとんどのゴキブリは自然の中に住んでいて、屋内に 住み着いている種は1%にも満たないのです。ヘビは 本当は臆病であることを知っていましたか。身近な毒 ヘビとして知られるヤマカガシやニホンマムシは、お となしい性格で、自分から人を攻撃することはありま this

後半では、わたしたちのくらしから引き起こされる さまざまな問題によって、「嫌われもの」を含めた多 くの動物が危機に直面している現状について取りあげ ていきます。また、この問題を解決するために茨城県 が取り組んでいる「茨城の生物多様性戦略」や「レッ ドデータブック」などについても紹介します。

「嫌われもの」の本当のすがたを知り、彼らからの被 害を防ぐためのつきあい方や、彼らの魅力と生態系の 中で担う重要な役割について考えてみてください。こ の企画展をみれば、嫌いだった彼らのことがちょっと 好きになるかもしれません。 (教育課 潮田好弘)

- 第1部 人のくらしに影響を与える動物
  - ① オスは刺すことができないのよーハチの告白-② 血はわたしの栄養源ーカのささやきー

- ② 曲はわたしの宋養源一力のささやぎー
  ③ 台所だけが住みかじゃないーゴキブリの言いぶんー
  ④ 家ばっかり食べている訳じゃないーシロアリの叫びー
  ⑤ みんなが同じ種類じゃないよームカデのぼやきー
  ⑥ エサを探しているだけなのにーカラスたちの憂鬱ー
  ⑦ 人里はエサの宝庫だ よし行くぞ!ーイノシシの本音
  ⑧ わたしたちの住宅事情ーネズミの悩みー
  ⑨ いろんな所に住んでるよーダニのつぶやきー
  ⑩ 本当のすがたを見てくださいーヘビの訴えー

#### 第2部 人のくらしと身近な動物の現状と課題 一未来に向けて一

- ① 住みかがなくなってしまった! ② 自然に対する働きかけの変化
- ③ 外国のなかまが来たために
- ④ 地球環境の変化
- ⑤ 茨城県が行っている取り組み ⑥ 生きものにとって最も危険な動物は?



コガタスズメバチ



(撮影: 今井初太郎) オオゴキブリ



(撮影: 今井初太郎) ニホンマムシ



(撮影: 今井初太郎)

## 期 2015年10月10日(土) ~2016年 1 月31日(日)

開館時間

10月10日(土)は午後1時からの公開となります。 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

毎週月曜日 休館日

※10月12日(月)、11月23日(月)、1月11日(月)は開館し、 翌日が休館となります。 ※12月28日(月)~1月1日(金)は休館となります。

#### ●自然講座 嫌われものの動物たち連続講座

日 時:10月31日(土)10:00~12:00

場 所: 博物館内

象:小学生以上(小学生は保護者同伴) 対 員:30名(事前申込み・先着順)

# ●自然講座 ダニってなーに? 顕微鏡で見るダニの世界とホットな話時: 11月29日(日)13:30~15:00所: 博物館内

場

師: 茅根重夫氏 (茨城県環境アドバイザー) 象:小学生以上(小学生は保護者同伴)

員:30名(事前申込み・先着順)

#### ●自然講座 イノシシは害獣??

私たちと野生動物、これからのつき合い方

時:1月23日(土)13:30~15:00 日

煜 所:博物館内

師:竹内正彦氏(中央農業総合研究センター) 講 対 象:小学生以上(小学生は保護者同伴)

員:30名(事前申込み・先着順)



# コレクション機能

中期計画2015 2

展示や教育普及活動が、博物館の表の活動("コミュニケーション機能"とよびます)とするならば、資料の収集保管・調査研究は、博物館を支える裏方の活動("コレクション機能"とよびます)といえるでしょう。今回は、開館20周年を経過した当館のコレクション機能について紹介します。

#### [資料の収集保管]

「資料は社会から託された共有財産」という考えに立ち、自然博物館として必要な資料の収集をすすめています。当館は茨城県立の博物館であることから、資料の収集対象を「茨城の風土に根ざした自然」に関する資料を中心とし、いわゆる「地域収集資料 "Regional collection"」の充実をすすめています。

平成26年度末の資料の収蔵資料数は、動物、植物、地学の合計で352,614点にのぼります。この中には、企画展でお目見えするはく製やレプリカ、模型などはもちろんですが、昆虫の乾燥標本、哺乳類や鳥類の仮はく製、滚浸標本、植物のさく葉標本、地学の岩石・鉱物、そして化石など、形態も種類も多様な標本が含まれています。これらの収集された標本は、今の自然を記す資料として永年保管されます。

資料は、次項に示す調査研究の成果品としても集まりますが、近年はアマチュア研究者やコレクターからの寄贈も増えています。

当館では、資料の有効活用を図るためにデータベース化をすすめるとともに、研究活動への活用を図っていきたいと考えています。

#### [調査研究]

当館は、人と自然の調和ある共存を推進するため、 資料の収集と相まって茨城県の自然に関する学術的調 査研究をすすめています。特に、最近急速に高まって きた生物多様性保全の重要性を受けて、その基礎資料 の収集に関する調査研究を推進しており、平成26年 に策定された「茨城の生物多様性戦略」には、当館の 調査研究の成果が多く活用されました。

当館の学術調査研究は、博物館が一丸となって取り 組んでいる総合調査研究、動物・植物・地学の研究室 ごとに実施している分野別調査研究、個々の学芸員の 専門性を生かしたテーマに取り組む創造的調査研究な どに分けられます。その中で総合調査研究は、県内の 動物・植物の分布・生態・生息環境の特性、地質・気 象等の地学的特性を把握し、それらの相互関係や変遷 のメカニズムを解明することを目的として、開館以来 20年以上にわたって実施されてきました。この研究 は、茨城県を4つの地域に分け1地域を3年間かけて行 います。12年で県内を一巡し、平成27年は二巡目の 最後の地域の調査を行っています。総合調査研究は, 館職員だけでなく、県内の大学、研究機関、地域の研 究者の協力を得ながらすすめられています。その成果 は報告書にまとめられ、定期的に企画展を開催し広く 県民に紹介しています。

当館はこれからも県内に山積する課題に対応すべく, 調査研究, 資料の収集, 情報の発信をすすめていきた いと考えています。 (資料課 久松正樹)



コレクターからの寄贈資料

動物収蔵庫

調査で採集された昆虫標本

研究報告書等

# ハクビシン

ハクビシンによる農業被害や騒音・悪臭が問題となっている。

ハクビシンは日本に生息する唯一 のジャコウネコ科の哺乳類で、長ら く日本の在来種か外来種かの論争が 続いたが、最近では外来種説が有力 である。

人里近くに生息し、小動物から果実類にいたる広い食性をもち、夜行性の利点を活用し、ミカンやナシなどの果樹園をあらし、家の天井裏で子育てを行う等、人の生活圏に近

みに入り込みその生息域を拡大してきた。茨城県では、1963年2月に西金砂山で捕獲されたのが最初の記録であるが、今日では多くの場所で発見されている。

多摩動物公園の勤務時代に園内の野生タヌキの捕獲箱にハクビシンが入った。本物をみたのはこの時がはじめてだった。早速、余り乗り気でない飼育職員に命じて展示させたが、その職員が心配した通り、高い平滑なコンクリート壁を器用によじ登り

### 館長コラム by director SUGAYA

2日程で逃亡した。それ以降この動物との相性が悪い。



イラスト:池上侑花(ミュージアムコンパニオン)



洞窟調査 研究報告 1

2016年2月に開催する第65回企画展「洞窟展」(仮称)の調査のため、今年の3月初旬に山口県美祢市と福岡県北九州市に行きました。今回の調査の目的は、洞窟に入り、洞窟の基礎を学ぶこと、洞窟に関する展示資料をみること、洞窟内で写真や動画を撮ることでした。3日間の調査を進める中で、秋吉台科学博物館、北九州市立いのちのたび博物館の皆様に多大な協力をいただき、充実した成果を得ることができました。

山口県美祢市にある秋吉台といえば日本有数のカルスト地形で有名です。カルスト地形は石灰岩が雨水で溶食されてできます。写真でよくみかける緑の草原の中のたくさんの白い石灰岩の柱を想像していましたが、冬の秋吉台は、山焼きを行うため灰色の石灰岩の柱になっていました。少し残念に思いましたが、この山焼きのおかげで、夏には緑の大草原が広がるそうです。

秋吉台には、秋芳洞、大正洞、景清洞と3つの観光 洞があります。秋芳洞では、百枚血や黄金柱などダイナミックな洞窟生成物やコウモリが群れで冬眠している姿をみることができました。大正洞と景清洞は、秋吉台科学博物館の方に案内していただき、調査法の一つを教えていただきました。まず、洞窟の周りにあいている穴に線香の煙を近づけて煙の向きをみます。そ



景清洞での調査のようす

の煙の向きでどの穴とどの穴がつながっているか、穴 の上下関係はどうなっているかを知ることができるの です。大正洞は、迷路のように道が入り組んでいて、 かなり歩いたのに出口から外に出たら、最初に入った 入口の近くだったことに驚きました。この洞窟は5層 の洞窟が竪穴でつながっているので、 類い範囲で登っ たり、下ったりしていたのです。ここでは、メクラヨ コエビという洞窟性のエビをみることができました。 ここと指をさしてもらわないとみつけることができな いほど小さかったですが、真っ白で、横に泳ぐ姿がと ても可愛らしかったです。景清洞では一般コースの奥 にある冒険コースに行きました。冒険コースは、真っ 暗で懐中電灯がないと進むことができません。洞内は 広く、壁や天井に過去の水流の跡をみることができま した。サンゴやウミユリなどの化石や洞窟性のヤスデ やトビムシもみることができました。しかし、暗闇の 中での撮影は思った以上に難しく、経験を重ねること が必要だと実感しました。

今回の調査でさまざまなことを学び、多くの情報を得ることができました。その成果を企画展で存分に発揮したいと思います。どうぞ、楽しみにお待ちください。 (資料課 諸橋靖子)



景清洞でみつけたヤスデとトビムシ

# 森の中にエビフライ!?

「森や林にはエビフライが落ちています」といっても食べ物のエビフライのことではありません。ニホンリスによる松ぼっくりの食べ残しのことです。リスは松ぼっくりの中にある種子を食べる為に、周りの鱗片を順番に剥がしていきます。最後には軸の部分だけが残り、エビフライにそっくりの面白い形になるのです。

ニホンリスは、ほかにもさまざまな木の実や種子を食べて生活しています。鋭い前歯を持っているため、

# 小さな発見-ミュージアムコンパニオン-

殻が厚く非常に硬いクルミなども、 二つに割って上手に中身を食べてしまいます。同じく鋭い歯を持つアカネズミはクルミに穴をあけるユニークな食べ方をします。みくらべてみると、それぞれの食べ方の器用さにとても驚かされます。

木々が色づきはじめるこれからの 季節,足下にも視線を落としながら, 小さな生きものたちの小さな食べ猿 をみつけてみませんか。

(ミュージアムコンパニオン 小川由莉)



ニホンリスとアカネズミの食べ痕

(提供: 柄澤保彦)



# 茨城の変形菌 研究報告 2

変形就という生きものをご存じですか。粘菌ともよばれ、南方熊楠や昭和天皇が研究した生きものとして知られています。変形菌は、あるときは色鮮やかなアメーバとなってバクテリアなどを食べ、またあるときは一夜のうちに胞子がぎっしり詰まった数mmほどの子実体をつくり、風に乗せて胞子をとばすという生きものです。多様性に富んだ子実体の形や色、アメーバから子実体への変身シーンを一度でも目にすれば、変形菌の不思議な姿に興味をそそられると思います。

変形菌は行ち木や落ち葉の多い森林によくみられますが、公園や人家の裏山、畑や庭の花壇など、私たちの身近なところでもみることができます。山地から平野まで多様性に富んだ地形をもつ茨城県内には多くの種がいると考えられますが、変形菌に関する研究は、ほかの生きものに比べて十分に行われてはいません。茨城県内にはどんな変形菌がみられるのか。その疑問を解決すべく、国立科学博物館名誉研究員の萩原博光氏、日本変形菌研究会の鈴木博氏との共同で、茨城県内の変形菌相に関する研究を行うことになりました。

今回の研究は、茨城県内で採集された変形菌標本を 再度調べ直すことからはじめました。国立科学博物館 と当館の収蔵標本から、茨城県産のものを選ぶと約



エナガウツボホコリ

3,300点の標本がありました。この標本一点一点を顕微鏡観察によって種名を確認します。変形菌は、子実体の中にある微小な構造や胞子の表面を顕微鏡で観察しないと種名が決まらないことが多いのです。

現在、標本の調べ直し作業はほぼ終了し、200種を超える変形菌が茨城県内でみられることが分かってきました。その中に、興味深い種もいくつかみつかっています。博物館野外でみつかったエナガウツボホコリという種は、ほとんどの場合、クリの雄花序に発生します。そのため、季節や場所が限られるので、まれにしかみられない変形菌のひとつです。また、県北部で見つかったコサカズキホコリは、クリのいがを好んで発生していることが多い種で、やはりみかけることはまれな変形菌です。これらの種がなぜクリを好むかは、残念ながらまだ明らかになっていません。

今後、3人で確認したデータを整理しながら、再度標本の確認が必要なものがないか点検していく予定です。また、福井総合植物園にも多数の茨城県産変形菌標本が収蔵されていることが分かったので、その結果も加えられるように調整をしています。これらの情報を含め、詳細な目録が完成しましたら研究報告に発表する予定です。ご期待ください。(資料課 宮本卓也)



コサカズキホコリ

# マツモムシ

マツモムシは「松藻虫」と書き、その名の通りマツモなどの水草が繁茂する池や沼に生息しています。体は細長い楕円形で、前脚、中脚はやや短く、長い後脚は泳ぐために発達しています。いつもは水草などにつかまりじっとしている事が多いのですが、ときどき水面で背泳ぎすることもあります。これには意味があり、水面に落ちてきた顔の昆虫をすぐに捕まえられるためだと考えられています。実際に水槽内のマツモムシに

餌を与えてみると、発達した長い後脚を舵のように動かして泳ぎ、餌に近づきます。次の瞬間、目にも止まらぬ速さで、前脚を使って素早く餌を捕らえて、鋭い口吻を餌に突き刺して体液を吸い取ります。普段のじっとしている姿からは想像もつかないので、ただ驚くばかりです。

来館の際にはぜひこの水面下の名 ハンター、マツモムシを観察してみてください。

(水系担当 新田雄紀人)

#### おさかな通信



餌の赤虫の体液を吸い取るマツモムシ



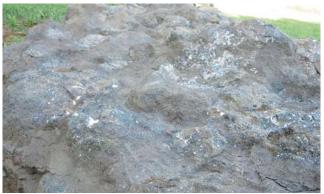
# 野外に新設された枕状溶岩

新展示紹介

このたび、博物館野外の自然発見工房の脇に約2mの枕状溶岩を新たに設置しました。

枕状溶岩とは、灼熱の溶岩が海底などに流れ出したとき、大量の水と触れることで急冷されてできた独特の構造をもつ溶岩です。設置された枕状溶岩は長野県上田市の道路脇に崩落した岩塊を採取したもので、新生代新第三紀中新世(約1700万年前)の海底火山の大規模な噴火に伴って形成されたものです。

この枕状溶岩の表面はでこぼこしています。断面をみてみると、これは枕のような形をした溶岩塊が積み重なっていたためとわかります。この構造は、溶岩の水中での独特の固まり方によるものです。海底に溶岩が流れると、その表面が水で急冷されて固まり、楕円球状の薄い殻ができます。しかし内部はまだ融けた状



でこぼこした枕状溶岩の表面

態であるため、やがて溶岩の流れに押されると殻の一部が割れ、そこから溶岩が海水中に流れ出し、再び精円球状の殻をつくりながら固まります。枕状溶岩はこのようにして溶岩塊が積み重なってできたものです。

この枕状溶岩ができた中新世は、日本の大地が大陸 から分かれ、その間に日本海が誕生した大変動の時代 で、日本列島の日本海側を中心に海底火山活動が極め て活発に起こっていました。この枕状溶岩もその活動 の一つで、日本列島の誕生を物語る貴重な資料です。

最近、日本列島では御岳山の噴火をはじめ、箱根山、 桜島など活発な火山活動が続くなど、日本列島の活動 期に入ったのではないかとの推測もされています。し かし、日本列島は過去には想像を絶する大変動を経験 してきているのです。 (教育課 小池 渉)



切断面にみる枕状溶岩の構造

# 性が変わる魚たち

舞台はオーストラリアのグレートバリアリーフ、ク ラウンアネモネフィッシュのマーリンは人間にさらわ れた息子の二モを取り戻すため、ナンヨウハギのド リーといっしょに冒険の旅に出る――。大ヒットした アニメ映画『ファインディング・ニモ』の冒頭です。 主人公はクラウンアネモネフィッシュの二モ。クマノ ミという魚のなかまで、日本にもよく似た種類のカク レクマノミがいます。この映画では「イソギンチャク と共生する」、「一夫一妻で仲がよい」、「卵の世話 はお父さんがする」など、クマノミの生態がうまく表 現されています。ただし、ひとつだけ作品の中では触 れられていないことがあります。それは、クマノミは オスからメスに性が変わる魚であるということです。 クマノミは「雄性先熟」といって、小さいうちはすべ てオスです。しかし、成長すると群れの中で一番大き な個体がメスに変わります。夫婦のクマノミでは、メ スの方が先に死ぬとオスがメスへと性転換して別の小 さいオスと夫婦になります。ということは、二モのお 父さんはお母さんに変わって…?!

なるほど博物館

このコーナーは,自然に関するさまざまな情報を, わかりやすくお伝えするコーナーです。

じつは、魚類の世界では性転換は特別な現象ではありません。約400種類もの魚が性転換することが報告されています。当館の海の水槽にいるクロダイやマダイも成長とともに性転換をする魚です。しかし、陸生の脊椎動物では、性転換するものはみつかっていません。なぜ魚だけがそのような能力をもっているのか。そんな魚の不思議をさがして、みなさんも海の中へ冒険に出かけてみませんか。 (資料課 土屋 勝)



カクレクマノミ



# トピックス

#### ○葉っぱで音をかなでよう

2015年7月25日(土),野外の自然発見工房で葉っぱ展関連イベントである自然講座「葉っぱで音をかなでよう」が実施されました。

当日は、ちば里山草笛音楽隊の4名の方を講師に迎え、野外で採集した葉っぱで草笛をつくり吹き方のコッを教えていただきました。当日は、たいへん蒸し暑い中26名の参加者の皆さんは、野外を散策しながら草笛づくりに挑戦しました。その後、自然発見工房で、薄い板に葉っぱを挟んでかんたんに音を出すことができる草笛キットをつくり、参加者全員で音をかなでました。講師の皆さんの模範演奏に続いて、参加者全員で演奏した「さんぽ」や「ビリーブ」の音色はとても感動的でした。

午後には館内の企画展示室前で、講師の先生方に 葉っぱの演奏会を実施していただきました。来館者の 方々は、そのすばらしい音色に吸い込まれるように聞 き入っていました。

新たな葉っぱの魅力を感じることができた一日となりました。 (教育課 小泉直孝)



自然発見工房での草笛づくりと演奏

#### ○挑戦!オールナイト昆虫観察!2015

2015年7月25日(土)から26日(日)にかけて「挑戦!オールナイト昆虫観察! 2015 | を実施しました。

最初に、子どもたちに「トンボを三角紙にいれよう」や「部屋のそうじをきちんとしよう」などのミッションを設定し、全ミッションのクリアを目標に1泊2日の観察や生活をしてもらいました。野外観察では、ウチワヤンマやオオヤマトンボなどの大型のトンボや、ナゴヤサナエなどの珍しいトンボを観察することができました。また、キアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、ジャコウアゲハなどのアゲハチョウ類をはじめ、カブトムシ、ヤマトタマムシなど多くの昆虫が観察できました。各グループで採集した中で一押しの昆虫について子どもたちに発表してもらい、昼の観察のまとめを行いました。また、夜の観察ではライトトラップに集まる昆虫や、セミの羽化などを観察しました。はじめて

みるホタルの光に感動するお母さん、早朝ではバナナトラップの中いっぱいにカブトムシが入って歓喜する子どもたちの姿が印象的でした。

暑い2日間でしたが、熱のこもった観察会となりました。 (資料課 中川裕喜)



夜のライトトラップ観察

#### ○教員のための博物館の日 in ミュージアムパーク

「教員のための博物館の日」は、国立科学博物館と日本博物館協会が中心となり、北は旭川市旭山動物園から南は宮崎県総合博物館まで全国で20の施設が取り組んでいます。当館では2015年8月6日(木)にこのイベントを開催しました。博物館には学校の授業で使える素材がたくさんあります。教員の皆さんにぜひ知っておいてもらいたいプログラムをたくさん準備し、それらを紹介したり体験してもらったりすることで当館についての認識を深めていただきました。

当日は猛暑でしたが、県内外から70数名の先生方が当館を訪れ、「博物館の効果的な利用方法」、「教育用資料貸出資料の紹介」、「貝化石掘り体験」、「化石のレプリカづくり体験」、「野外や館内のガイドツアー」などのプログラムを熱心に体験されていました。参加者からは「遠足のプログラムを見直すきっかけになった」「校外学習の見学地として今後検討していきたい」などの声が聞かれ、有意義な一日となりました。今後さらに博物館と学校が連携を深められるよう努力していきたいと思います。 (教育課 椿本 武)



化石についての話を聞く参加者

# ガイドツアー 9,000回



9,000回記念ガイドツアー記念写真

2015年8月27日(木), ガイドツアーが開館当初から 数えて9,000回という節目の回を迎え、記念のセレモ ニーが行われました。

このガイドツアーは、1日3回、さまざまな世代の方 にお楽しみいただけるように、展示解説員1人1人が創 意工夫をし、展示資料の解説や自然科学に関する情報 をお伝えしながら、展示室を巡っていくものです。毎 回,展示解説員によって紹介する内容も少しずつ変化 し、何度参加しても新しい発見ができるツアーとして、 来館者の皆様にはたいへん好評を得ています。

当日の午後1時には、夏休みということもあり、記 念のガイドッアーには子どもからご年配まで37名も の方が参加されました。セレモニーは第1展示室前で 行い、菅谷館長の挨拶に続いて、記念写真の撮影を行 いました。その後、シンボル展示である松花江マンモ スまでもどり、記念のガイドツアーガスタートしまし た。4名の展示解説員が順にバトンタッチしながら、 各展示室をご案内していきましたが、参加者は、楽し



ガイドツアーの一場面

そうに解説に耳を傾けていました。参加していただい た皆様には、ガイドツアー終了後に記念品として、ク イズ付き博物館招待券引換券、記念写真などをお渡し することができました。

9,000回の記念ガイドツアーは大成功のうちに終了 することができました。来たる10,000回のガイドツ アーに向けて、職員一同さらなる研修を積み、これか らも来館された方々にご満足いただけるように努力し て参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。 (教育課 小泉直孝)

#### 編集後記

私ごとではございますが、先日家にでたゴキブリを、30 分程の激闘を繰り広げた末に追い払いました。その時、今 号でお伝えする次期企画展のことを思い起こしました。

企画展を通じ、一般に「嫌われもの」とよばれる彼らの意 外な一面を覗いてみれば、これまでの印象が変わるきっか けとなるかもしれません。私も今から企画展の完成を楽し みにしています。皆さんもご期待ください。 (Y, T)

#### [交通案内]



#### 〈車ご利用の場合〉

- ●常磐自動車道谷和原ICから20分
- (鉄道・バスご利用の場合
- ●東武アーバンパークライン(野田線)愛宕駅下車 ~茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車 ~「自然博物館入口」下車, 徒歩10分
- ●つくばエクスプレス,関東鉄道常総線守谷駅 下車~関東鉄道バス「岩井バスターミナル行き」 乗車~「自然博物館入□」下車,徒歩5分 ※事前に発車時刻等をご確認ください。



#### [開館時間]

9:30から17:00まで (入館は16:30まで) ※ペット、遊具、テー ブル 椅子及びテン ト等のお持ち込みは ご遠慮ください。

#### [入館料]

L/ \&644]					
区	分	本館・野外施設		野外施設	年間
		企画展開催時	通常時	のみ	パスポート
_	般	740円 (600円)	530円 (430円)	210円 (100円)	1,540円
高校•大学生		450円 (310円)	330円 (210円)	100円 (50円)	1,030円
小・中学生		140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)	310円

)内は団体料金(20名以上)

未就学児・満70歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。

- 次の日は入館料が無料です。 ●5月4日(みどりの日) ● 5月4日(みどりの日) ● 11月13日(茨城県民の日) ● 3月20日(春分の日)
- ●高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日 (ただし、春・夏・冬休み期間中を除きます。)

#### [休館日]

●毎週月曜日

※9月21日(月), 22日(火), 23日(水)は開館し, 9月24日(木)が休館となります。 ※10月12日(月), 11月23日(月)は開館し, 翌日 が休館となります。

が休島へはります。 ※12月28日(月)~1月1日(金)は休館となります。

〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL0297-38-2000 FAX0297-38-1999

企画・編集:ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課/発行2015年9月15日



## **4**·MUSEUM(ア・ミュージアム) A·MUSEUM (AMUSEMENT+MUSEUM)

http://www.nat.museum.ibk.ed.jp/ webmaster@nat.museum.ibk.ed.jp 9月から当館のHPアドレスが新しくなりました。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しめ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。